



東京都中央区京橋三丁目13番1号
TEL 03-3561-9431

自然・社会・人



みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

大成ロテックはチームマイナス6%に参加しています。



企 業 理 念

自然と社会と人に深くかかわる企業として、
人々のためにより良い環境を創造する。

品 質 方 針

大成ロテックは、社会と顧客から評価され、
信頼される快適環境を創造する。

- ①技術の研鑽に努め、創造力と知恵を結集し、製
品の品質を向上させる。
- ②製品の品質を確保するため、業務の効率化と継
続的な改善を行う。
- ③コンプライアンスの徹底により、社会的責任を
果たす。

安 全 衛 生 方 針

大成ロテックは、安全衛生マネジメント
システムを確実に運用し、事故・災害の撲滅と
健康で明るい職場の快適環境を創造する。

- ①P・D・C・Aのサイクルを回し、労働災害及び公衆災害
の撲滅を実現する。
- ②「先手管理」、「一人KY」等の先取り型の安全管理活動
により、事故・災害を防止する。
- ③労働安全衛生に関する法令、規則、社内規定を遵守
する。
- ④従業員並びに協力会社が一体となり安全衛生活動を
推進し、安全衛生管理体制水準の向上を図る。

Corporate Social Responsibility Report 2009

Nature Social
Human 2009



▶ TABLE OF CONTENTS 目 次

企業理念	品質方針・安全衛生方針・環境方針
代表者コミットメント	地球環境・地域社会・多様な ステークホルダーへの貢献が、企業価値の源泉
巻頭特集	よみがえるアスファルト合材 巨大旅客機の重量を支え、安全を守る
コーポレート・ガバナンスと内部統制	内部統制
教育・研修	教育・研修に力を入れ、ヒューマンスキルを高める
自然を大切にする技術	CO ₂ 削減とヒートアイランド対策
社会に貢献する技術	道路の安全性・耐久性と美しさを追求
人に貢献する技術	人の生活を第一に考え、心に潤いを
企業市民	地域社会や人々との交流 技術研究所 環境を中心テーマに、社会と時代の要請に応える開発・研究を推進
環境活動報告	オフィスにおける環境保護活動 マテリアルフロー 環境負荷物質の排出と削減状況 実績と目標
ISOに基づく外部審査・内部監査	外部審査と内部監査
編集後記	編集後記
会社概要	会社概要 事業ネットワーク

地球環境・地域社会・多様な ステークホルダーへの貢献が、企業価値の源泉

道路建設と合材製造と建設資源のリサイクルを3つの柱とする大成ロテックは、それらの事業を通じて、自然と社会と人に深くかかわってきました。

世界的に大きく変動する経済環境の下、新たな経営戦略を打ち出し、責任ある企業としての社会貢献をより一層果たしていく所存です。

社会の成長にかかわってきた歴史を踏まえ、快適環境創造業として次の一歩へ

—— 道路という、社会の大動脈に関わる企業として責任も大きいと思いますが。

当社は、50年近くにわたって道路会社としての歴史を刻み、日本の高度成長の一端を担ってきました。今日でも道路がもたらす波及効果は、経済だけでなく文化や地域の発展に対し、計り知れないものがあります。

地球環境に配慮した道路づくりによって「快適環境創造業」としてさらにお役に立ちたいと考えています。

—— 環境に配慮した技術には、長年にわたって培ってきたものがありますね。

保水性舗装や遮熱性舗装などによるヒートアイランド対策や、CO₂排出を抑制する中温化アスファルト、再生アスファルト合材によるリサイクルなどがあります。

当社の事業の中で最もCO₂排出が大きいのは、アスファルト合材を高温で練る工程です。中温化アスファルト技術により、この温度を30℃下げること成功し、15%のCO₂削減効果を上げました。

変わらぬ理念 —— 「環境保護は、本来の業務の一つである」

—— 環境活動において、最も大きな課題、目標は何でしょうか。

最も身近な環境問題は、建設廃棄物の適正処理です。まずは各種環境法規制を厳格に順守することが基本です。

その基礎の上に、日々の業務に根ざした環境活動が生まれます。この重要性を、私は昨年までの社会環境報告書の中でも、繰り返し強調してきました。

その意味で「環境保護は本来の業務の一つである」という姿勢はまったく変わりません。

—— リサイクル事業も、まさに本業としての環境活動ですね。

そうです。当社はアスファルトやコンクリートのリサイクル事業により、リサイクル率ほぼ100%を達成しています。

また、環境省や国交省が推奨している電子マニフェストを道路建設業界で初めて導入しました。

新たな中期経営計画で、量から質への転換をはかる

—— 企業経営において、ことに留意されている点をお聞かせ下さい。

昨年来、経営環境が世界的に激変しました。それにいち早く対応し、2009～2011年度の中期経営計画を策定しました。

一言で言えば「量より質への転換」です。事業量の確保より、質の獲得つまり利益率を重視する経営への転換です。

そのために経営資源の配分における「選択と集中」を徹底し、社員を重点部署に集中するなどの措置をとっていきます。

—— 内部統制やコンプライアンスについてもお聞かせください。

内部統制に求められるものは社会の動きによっても変化しつつありますが、基本は社員一人ひとりの倫理観に根ざすものです。

最近、社員のコンプライアンス意識についてアンケート調査を行いました。75%から回答がありましたが、企業行動規範などへの理解は定着してきました。こうした意識の高まりは、生産現場での管理の質的向上にもつながるもので、今後も大切に育てていきたいと思っています。

企業力の源泉を生み出す、社員の教育と意識改革

—— 意識の変化は、社内教育や啓発活動などの成果でもあるのでしょうか。

当社の企業力の源泉の一つは、社会と関わり、自然と向き合う「現場の力」だと常々考えています。したがって、社員の教育や意識改革は非常に大事な課題と認識しています。

昨年4月より、本社生産技術本部内に業務改善推進部を新設し、社員教育、OJT、パトロールなどの組織的な行動を始めています。また部門別、職位別の研修も計画的にスタートさせました。

地域社会との相互理解を深め、法令順守を徹底する

—— 地域社会への貢献などは、どう推進して行かれるのでしょうか。

施工現場の見学会を行うなど、住民の皆様との相互理解を進めたり、地域の安全・便利・美化をはかる活動なども積極的に行っています。また「道の駅」にAEDを設置するなど、業界を挙げて推進しています。

社員が安心して働けてこそ、社会貢献も可能になります。福利厚生や労働時間管理の更なる適正化にも力を入れていきます。

—— 最後に、多様なステークホルダーの皆様に対し、最も伝えたいことは何でしょうか。

最初に掲げた企業理念を、あらゆる企業活動を通じて実現するということに尽きます。そのために最優先すべきは法令順守であり、教育を通じて社員や協力会社の「法の無知」がないようにしていくことが、責任ある企業としての義務だと思います。

当社の企業価値は、適正な利潤を生み出すことと同時に、CSRへの取り組みによって大きく左右されることを肝に銘じてまいります。

よみがえるアスファルト合材

大成ロテックのリサイクル技術

C o v e r s t o r y ①

Corporate Social Responsibility Report 2009

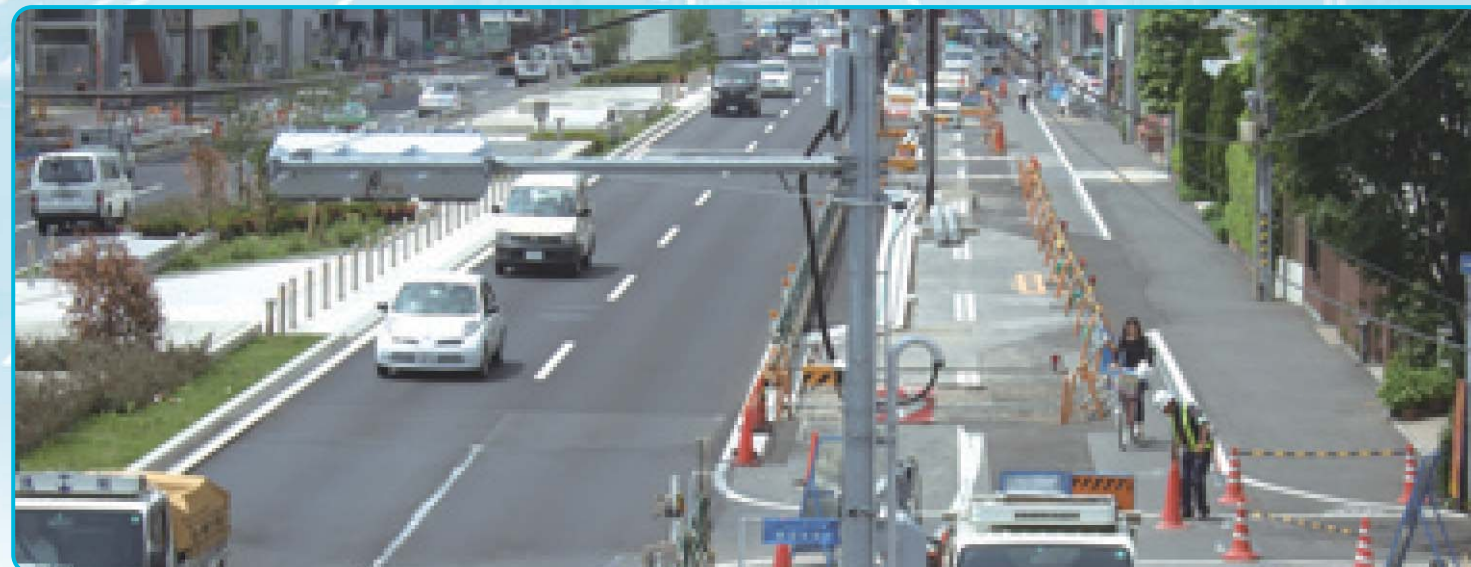
古くなった舗装を削り取り、新しいアスファルト舗装を施す。街でよく見かける工事風景ですが、そんな中にも、資源を有効活用し、環境にやさしい道路づくりを進める大成ロテックの技術が隠されています。

当社は、道路舗装のエキスパートであるとともに、アスファルト合材の製造・リサイクルメーカーでもあります。

東京ベイエリアの青海地区に独自の合材工場とリサイクルセンターを持ち、老朽化したアスファルト舗装は、この青海工場で処理され、新しい舗装としてよみがえります。

首都高速中央環状新宿線の工事にともない、山手通り(環状6号線)では、大幅な拡幅工事が行われており、大成ロテックはその一翼を担っています。

この施工現場を例にとり、どのようにアスファルト合材が再利用され、資源の有効活用が行われているかをご紹介します。



東京の大動脈の一つ、山手通り。大成ロテックの舗装技術は、首都の人と物の流通や安全に寄与しています。

01



道路表面の老朽化したアスファルト舗装を機械により短時間で取り除いていきます。

02



削り取られた廃材は、トラックに積み込まれ、リサイクルセンターに運ばれます。

03



最新鋭の機械が導入されている、東京青海合材工場及び東京リサイクルセンター。ここに道路廃材が運ばれ、新たな舗装材料として生まれ変わります。

04



廃材がリサイクルセンターで再生され、アスファルト合材の一部として使用されます。

05



巨大なサイロが並ぶ青海の合材工場。廃材の一部を再利用して作られたアスファルト合材が、舗装現場へ運ばれて行きます。

06



再生され、新たな舗装のために運ばれてきたアスファルト合材が、機械により短時間で敷き均されていきます。

07



ローラーによる転圧作業。後は路面に白線を引くなどの作業を行って完成です。

Column

地域の方々とのコミュニケーションを大切に

現場での仕事は、地域社会の一員としてコミュニケーションを図り、近隣の方々の理解やそれぞれの地域に見合った対応も求められます。近隣の方々への説明会、安全掲示板の設置、週末作業のお知らせ・ビラの配布なども、私たちの大切な仕事。施工現場の周辺には住宅街があり、多くの歩行者や自転車利用の方々もそばを通行します。この現場では、自転車の無料空気入れを設置し、地域の方々へのきめ細かい心配りやサービスに配慮しており、好評を得ています。



Before

施工前
交通量の多い都市部などは、路面が痛むのも早い。



施工後
合材のリサイクルによって道路もよみがえり、より安全な走行を可能にします。

After

巨大旅客機の重量を支え、安全を守る

道路だけではない。羽田空港拡張にも活躍する大成ロテック

C o v e r s t o r y ②

Corporate Social Responsibility Report 2009

東京の空の玄関口、羽田空港。1日に20万人もの人々が利用されると言われます。現在、2010年の完成を目指して、滑走路、国際線ターミナル、新管制塔などの拡張工事が着々と進んでいます。大成ロテックの技術は、こんなところでも活躍しています。



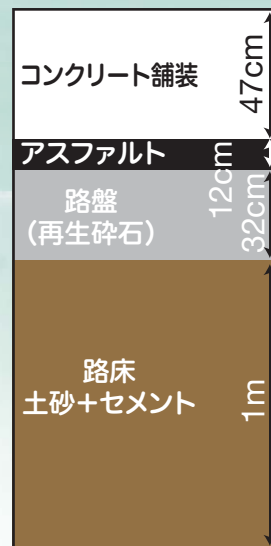
当社の担当している新しい国際線地区エプロン建設現場。

羽田空港に4本目の滑走路(D滑走路)を新設し、年間発着能力を約41万回に増強(現在は約30万回)する大規模なプロジェクトが進行しています。数年先を見据えた国内線需要とともに、新たな国際定期便の就航に必要な機能を整備するためのものです。

大成ロテックは、巨大旅客機の重量を支え、安全な運航の基礎となる広大なエプロン(駐機場)と、新設滑走路の舗装を担当しています。

当社ならではの高い舗装技術が、安全な空の旅を支える縁の下の力持ちとなっています。

巨大なジェット旅客機の重量を支えるエプロンの舗装断面図。コンクリート舗装だけで47cm、全体では190cm以上の厚みをもつ。



目地入れ作業

コンクリートに目地を入れていく。人の手による入念な作業も必要とされます。



コンクリート養生

流し込んだコンクリートの上に養生マットを敷き、散水して乾燥を防ぎ、時間をかけて養生を行います。養生とは、コンクリートが硬化するまでの間に適度の温度と湿度を保ち、十分な強度を確保する大切な工程です。



コンクリート舗装完了

遙か先まで延々と続くエプロン建設現場。規模の大きさがよく分かります。

Column 広大な施工現場に圧倒されました

大成ロテックは、道路だけでなくほかにも様々な工事に参加しています。CSR報告書制作チームは、羽田空港の滑走路・エプロン新設工事の現場を訪れ、現場で密着取材しました。これほど大規模な工事もやっているんだ、と正直驚くばかりでした。



羽田空港の施工現場で、担当者から話を聞くCSR報告書制作チーム。



入社して最初の現場がいきなり羽田の巨大プロジェクトだったという多野工事担当。やりがいとともに大きな責任を感じている毎日だと語る。



スリップフォームによるコンクリート施工状況

コンクリートの供給から敷きならし、締固め、成型、表面仕上げなどを完全機械化したスリップフォーム方式により、1時間あたり120立米ものコンクリートを打ち込むことができます。

これにより、省力化やコストダウンを実現し、ことに空港など層の厚い大規模コンクリート舗装で威力を発揮しています。

Corporate
Social Responsibility
Report
2009

コーポレート・ガバナンスと内部統制

コーポレート・ガバナンスに対する基本的な考え方

当社グループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、
「経営の効率性ならびに透明性・健全性を高め、コーポレート・ガバナンス体制を充実させることで
株主・顧客をはじめとした会社関係者の信頼を深めていく」ということであり、
グループ各社におけるコーポレート・ガバナンス体制のなお一層の整備を図り、
グループ全般にわたる企業価値の向上を目指しております。

内 部 統 制

当社は、取締役の職務の執行が法令および定款に
適合することを確保するための体制その他業務
の適正を確保するための体制（内部統制システ
ム）につき取締役会において決議し、適正で効率
的な体制の実現を目指しております。

その具体的な施策及び整備状況は右下のとおり
であります。



1

コンプライアンス体制

「大成ロテック企業行動規範」を
はじめとするコンプライアンス
体制に係る諸規程に加え、
法令上疑義のある行為等について
使用人が直接情報提供を行う
仕組みを定めた「内部通報規程」を
整備しております。

2

情報管理体制

「社内用文書管理規程」
等の文書・情報関連の
社内規程を
整備しております。

3

リスク管理体制

損失の危険の管理に
関する規程である
「リスクマネジメント基本規程」
「リスク管理規程」
「事業継続計画（BCP）」に加え、
近年社会問題化している
情報漏洩対策のため
「情報セキュリティ管理規程」を
整備しております。

4

企業集団における
業務の適正を
確保するための体制

当社及び子会社から成る
企業集団における業務の
適正の確保のため、
「大成ロテックグループ会社
運営要綱」を整備しております。

社 会

教育・研修に力を入れ、社会に役立つヒューマン・スキルを高めています

新入社員からベテラン、幹部まで——それぞれの立場で業務能力と法順守の精神などヒューマン・スキルを身につける。大成ロテックは、企業の社会的責任を果たしていくために、人の育成に力を入れています。

新入社員教育

新入社員は、社会人としての基本的なマナーやスキルから、それぞれの業務に必要な専門的知識・技術を習得していく基礎を、3か月にわたる研修で身につけています。

各部門の先輩・講師の話を聞くだけでなく、各地の現場などにも出掛け、「自然と社会と人に深くかわる企業として、人々のためにより良い環境を創造する」という大成ロテックの社是を各自が吸収しました。



マネジメントシステム研修

当社は、2004年にISO14001を全社1組織で認証取得し、2007年12月には、ISO9001を全社統合。2007年4月より、安全衛生マネジメントシステムの運用を開始しました。この3つのシステムの仕組みの周知と運用及び2008年度より新設された業務改善推進部の業務内容周知のために、今年度は次のような教育・研修を実施しました。



実施日	研修内容	目的	受講者	講師
2008/4/15	業務改善推進基礎教育	業務改善におけるQMSの役割	各支社業務改善推進担当	社内講師
2008/5/9	安全基礎教育	送り出し教育	機械技術センター社員	社内講師
2008/5/18	安全・衛生・環境能力向上教育	職長能力の向上	建築担当社員	社内講師
2008/6/4～16	業務改善推進基礎教育	業務改善の進め方、提案の洗い出し方法	各支社ライン部長	社内講師
2008/10/16	業務改善の進め方教育	業務改善提案への対応方法	各支社業務改善推進担当	社内講師
2008/12/4	オフィス活動環境教育	当社のEMSの基本的周知	オフィス業務管理責任者	社内講師

コンプライアンス研修

当社は、平成10年に「大成ロテック企業行動規範」を定め、それに則って「法令等（法律、条令、慣習等の社会的ルール、社内ルール）の順守と社会的良識をもって行動する」ことを謳い、組織、体制の整備を行ってきました。さらに、役職員一人ひとりに確実にコンプライアンスの精神を植えつけるために全社でコンプライアンス教育を計画し、今年度は、本社主催の研修会を全国で54回、支社担当者による勉強会を8回、実施しました。

その内容は、一般的なコンプライアンス諸規定の解説

にとどまらず、危機管理、独占禁止法、刑法、入札・談合、セクハラやパワハラなどの人権問題など、多岐にわたり、具体的な問題を取り上げたものとなっています。



産業廃棄物研修

道路舗装に使用するアスファルト合材の約70%は、既存の道路に敷かれたものを再利用しており、循環型社会に貢献しています。

再利用する廃材（産業廃棄物）の取り扱いは、法で厳しく規制されています。

当社は、産業廃棄物の適正処理知識の周知徹底のための教育・研修を全国の営業所、合材工場で実施しています。

本年度は、全国8支社で、計59回の研修を実施しました。



人事部研修

企業の社会的責任を果たしていくためには、技術の向上と人づくりが不可欠の要素であるとする当社では、上記の各研修に加え、以下のように社員の各階層のニーズに即した多様な研修を実施しています。

- 営業所長研修
- 上級マネジメント研修
- 工事担当者（上級）研修
- 工事マネジメント研修
- 一級土木・一級舗装研修
- 工事担当者（初級）研修
- 専任職工事担当者研修
- 販売担当者研修
- 合材工場品質管理担当者研修
- 合材工場機械担当者研修（設備）
- 合材工場業績管理研修
- 中堅営業研修
- 営業担当者研修
- 管理担当者研修

CO₂削減とヒートアイランド対策を推し進め、自然環境を守る

夏、都市部の気温が上昇するヒートアイランド現象。その原因となる路面温度を下げる舗装や、道路工事の際のCO₂発生量を抑制するなど、大成ロテックは、地球温暖化を抑制し、自然環境保護活動を推進しています。

涼しい道

保水性舗装

舗装に保水性をもたせ、気化熱で路面温度を下げる。

路面温度の上昇を抑制する舗装の一つが、保水性舗装です。大成ロテックの保水性舗装「涼しい道」には、クールロードとセラクールがあります。

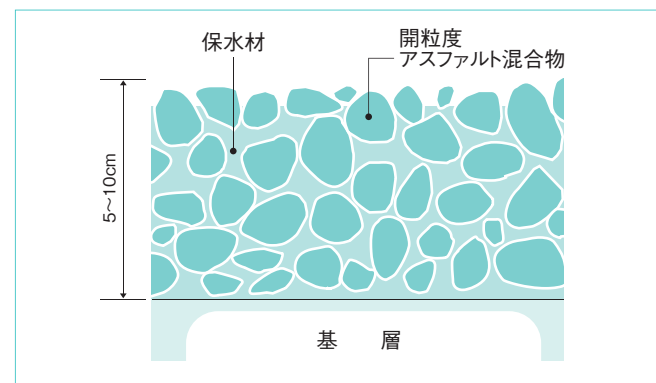
●クールロード [アスファルト系保水性舗装]

アスファルト混合物の空隙に、保水材を充填した舗装です。雨や打ち水などで保水された水分が蒸発する時の気化熱によって、路面温度が低減する仕組みを利用したものです。



クールロード施工例(浜名湖花博会場)

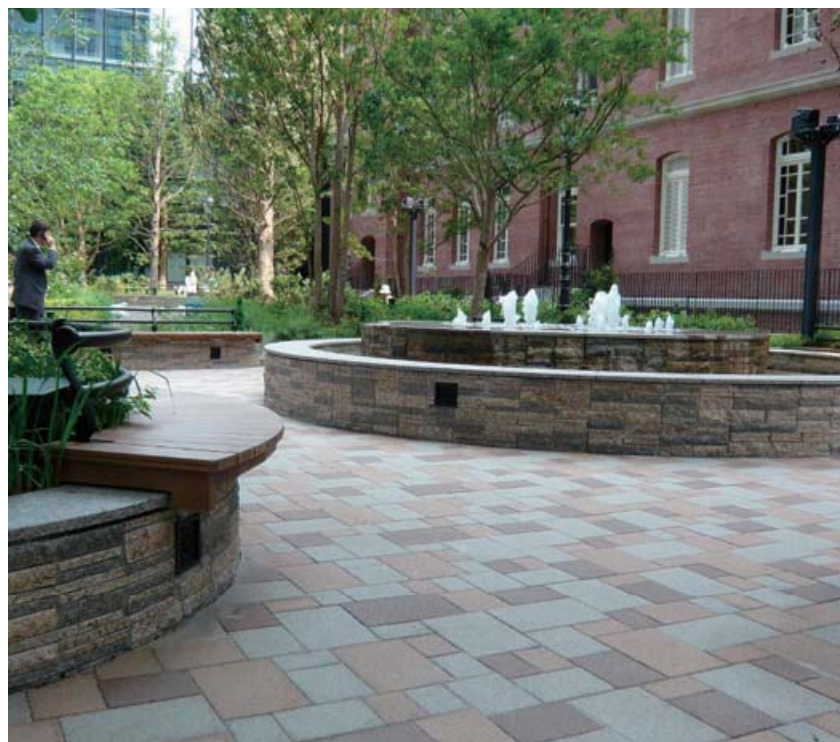
クールロード断面図例



●セラクール [歩行者用保水性ブロック舗装]

保水性とともに、水を吸い上げる能力にも優れたセラクールは、歩道や公園、広場などの歩行者空間に適した保水性舗装です。

セラクールシステム舗装は、ブロック底面からの自動給水システムを併設したもので、自動的に打ち水効果を得ることができます。



セラクール施工例 丸の内のオフィス街に設置された広場。人々の憩いの空間となっている。

クールウェイ

遮熱性舗装

太陽光を反射し、熱を吸収しない遮熱性舗装。

路面温度の上昇を抑制する方法として、舗装の上に反射性の塗料を塗ることで路面が太陽の熱線を反射し、舗装への熱の吸収を抑える方法があります。これが遮熱性舗装のクールウェイです。

クールウェイは既存の舗装の上に遮熱塗料を塗布するだけでも適用できます。



クールウェイ施工例(日比谷通り)

ビスコミックス

中温化合物材

アスファルト混合物の製造温度を下げて、CO₂排出を15%削減。

道路舗装の90%以上を占める加熱アスファルト混合物は、150℃以上の高温で製造されます。

ビスコミックスは、特殊な添加剤を加えることで、アスファルト混合物製造時の温度を30℃下げることができます。これによってCO₂発生量を約15%削減することができます。

項 目	通常混合物	ビスコミックス
混合物の製造能力(t/h)	100	
混合物製造温度(℃)	160	130
混合物製造1トンあたりのCO ₂ 発生量※(CO ₂ -kg/t)	16.2	13.9
通常混合物を100とした場合のCO ₂ 発生率(%)	100	85.8

※混合物製造時の燃料消費率から算出

※ヒートアイランド現象

都市部の気温は周辺よりも高くなる傾向があります。気温等高線を描くと、都市部が島のように見えることからこの名前があります。

原因としては、ビルの輻射熱、空調や車の排熱のほか、アスファルト舗装もその一つと考えられています。

C o l u m n

駐車場の緑化で、ヒートアイランド現象抑制に貢献 芝生パーキング

透水性ブロックの目地部に芝を張り、路面温度の上昇を防ぎます(緑化率約50%)。駐車場としての機能を保ちつつ、芝生による緑化を推進。高速道路のパーキングエリアやサービスエリアの駐車場や公園内の駐車場として使用されています。



道路の安全性・耐久性と美しさを追求する技術

道路に要求されるものは、第一に安全性とそれを持続する耐久性です。

大成ロテックは、さまざまな状況を想定しつつ、人と車の安全性をより高める舗装技術を開発し、安全で快適な社会に貢献しています。

リラクスファルト舗装

クラックを抑制するアスファルト系舗装

アスファルトが本来もつ優れた能力をより一層改善。ひび割れ(クラック)を防ぎ、安全に寄与。

リラクスファルトとは、アスファルトが本来もっている応力緩和能力やたわみ性(変形追従性)を、より向上させた特殊改質アスファルトです。

コンクリート舗装の補修工事などでアスファルト舗装によるオーバーレイが用いられる場合があります。しかし時間が経つと、ひび割れ(リフレクションクラック)が発生することがあります。リラクスファルトには、このひび割れ発生を抑制する機能があります。

また寒冷地などに見られる温度差によって生じるひび

割れ(サーマルクラック)を抑制する効果もあり、安全な道路づくりに貢献しています。



高いたわみ性(変形追従性)を示すリラクスファルト

●コンクリート舗装上のアスファルト舗装への適用

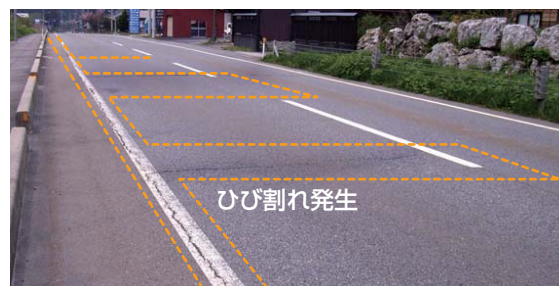
コンクリート舗装の上にアスファルト舗装を舗設すると、コンクリートの目地の部分などから、上方に向かってひび割れが生じることがあります。これを抑制するため、応力緩和能力に優れたリラクスファルト舗装が用いられます。

●寒冷地における舗装の表層面への適用

寒冷地で、温度の変動によって生じる舗装表面のひび割れを抑制するために、リラクスファルト舗装を使用することができます。

こうした工法により、ひび割れから発生する騒音や振動が抑制され、また舗装の防水性が向上し、道路の寿命が長くなるなどの効果があります。

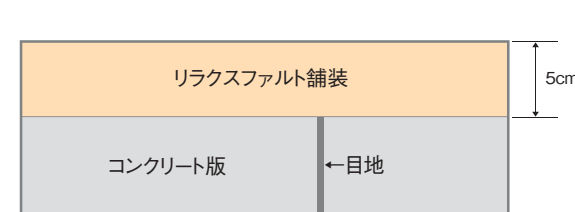
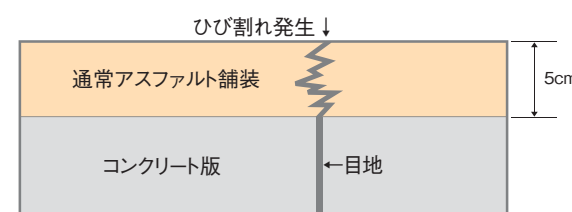
リラクスファルト舗装(右)と一般的な舗装(左)とのひび割れ発生状況の比較例(道路開通から45カ月後)



リフレクションクラックが発生した舗装



リラクスファルト舗装により、リフレクションクラックが抑制されている舗装



インジェクト工法

車道用天然石舗装工法

自然石の美しい街並みと、大型車が走行できる耐久性を実現した舗装工法。

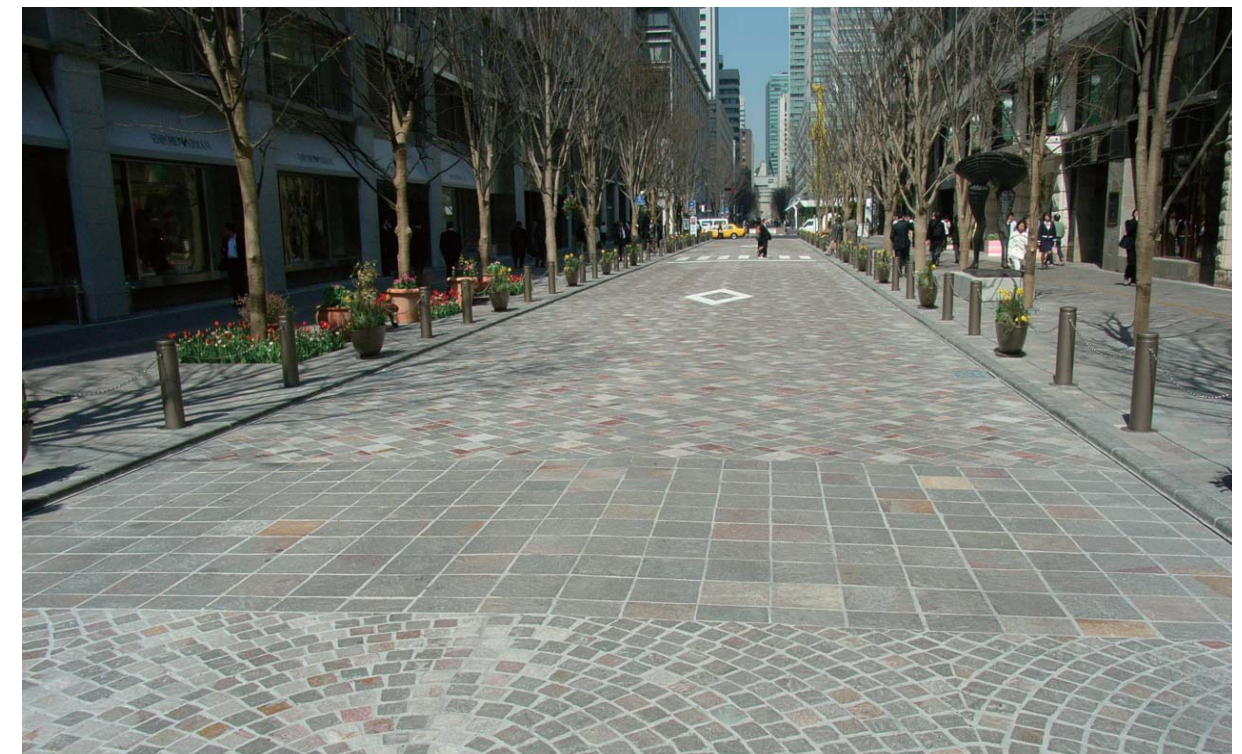
ヨーロッパの歴史的街並みを特徴づける自然石を敷き詰めた石張り舗装は、重厚で落ち着いた景観を生み出し、人々を惹き付ける魅力があります。

日本の文化では、石張り舗装は神社の参道など歩道舗装として用いられてきましたが、大型車両が走行するような車道では長期的な供用には耐えられないと考えられてきました。

これは、自然石ブロックを据え付ける技術が石工職人

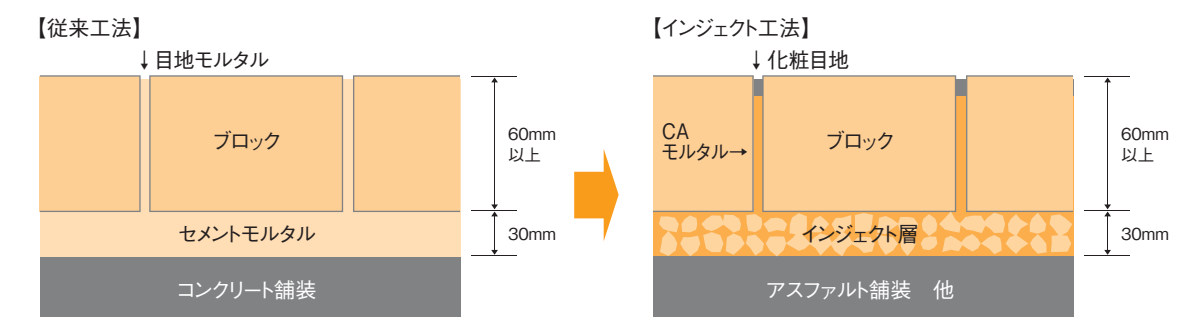
の技に支えられてきたため、車両荷重に耐える舗装技術として発達してこなかったことによります。

インジェクト工法は、施工方法と材料の両面から全く新しい発想で開発された工法で、従来工法の弱点部分を補った工法です。この工法によって、自然石ブロックの底面と側面の計5面が均一で衝撃吸収性に優れた材料(CAモルタル)でしっかりと拘束され、厳しい交通条件にも耐える景観舗装を提供できるようになりました。



インジェクト工法施工例(丸の内仲通り)。

インジェクト工法と従来のブロック舗装の比較



人の生活を第一に考え、心に潤いをもたらす

大成ロテックは日々の生活に身近な歩行者用道路や、誰もが安心して安全に通れるユニバーサルデザインに配慮した道など、人を中心においた道づくりに貢献しています。

シルバーウォーク80

歩行者系透水性弾性舗装

高齢者、車椅子、子どもなどを念頭においた優しい道

車椅子やベビーカーが走行しやすい硬さと、歩行者の転倒時にも大事にいたらない柔らかさをあわせもった歩道用の舗装です。

透水性にも優れ、水たまりになりにくいなど利用者にとって快適な路面を提供しています。

このような特長を活かし、一般の歩道、遊歩道のほか、公園、病院、神社・仏閣の参道、さらにはジョギングコースなどに広く使用されています。

表層に使われるカラーゴムチップにはさまざまなカラーバリエーションがあり、使われる場所の特性に合わせて選ぶことができます。

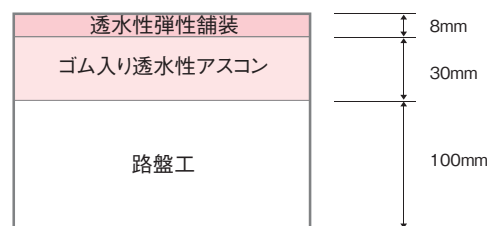
シルバーウォーク80の80とは、こうした用途にもっとも適した路面の硬さがおおむね衝撃加速度の値*80Gを中心とした範囲であることから名づけられました。

*JIS A 6519 床の硬さ試験による



シルバーウォーク80施工例（高齢者医療施設の中庭）

シルバーウォーク舗装断面図例



ソフトウォーク

アスファルト系ゴムチップ弾性舗装

幼児やお年寄りも安全・安心、コストパフォーマンスに優れた道

シルバーウォーク80と同様な衝撃吸収性を目標としながら、コストパフォーマンスを向上させた、歩行者系ゴム弾性舗装です。

従来のゴム弾性舗装は、ゴムチップと樹脂結合材を人力で混合・施工するため、通常のアスファルト舗装に較べてコストがかかりました。しかしソフトウォークは、専用ゴムチップと特殊アスファルトを組み合わせ、合材工場での大量製造と機械施工により、低価格化を実現しました。

一般の歩道、公園内の遊歩道、遊戯施設の周辺など幅広く使われています。

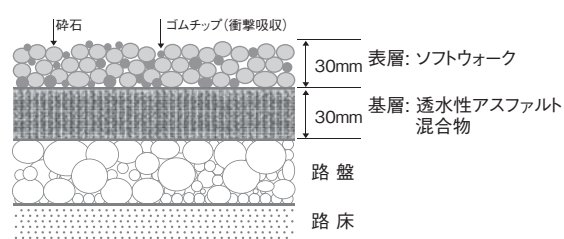
衝撃吸収性と透水性があるとともに、適度なすべり抵抗性をもっているため、雨の日でもすべりにくく安全に歩行できます。コストパフォーマンスに優れ、汎用性が高いため、路面のユニバーサルデザイン化の普及に貢献しています。

また、使用している専用ゴムチップもリサイクル材で、環境への配慮も忘れていません。



ソフトウォーク施工例（公園の遊歩道）

ソフトウォーク舗装断面図例



ウッドファイバー舗装

木質系樹脂舗装

木の質感がうれしい、人間と自然の調和を大切にしたい道

木材チップと、弾性功能のあるウレタン樹脂を混合して作られ、適度のクッション性をもっています。そのため歩行者の足腰への負担を軽減します。

気温が上昇すると、木材チップに蓄えられた水分が蒸発して周囲の温度を奪い、気温を下げる効果があります。

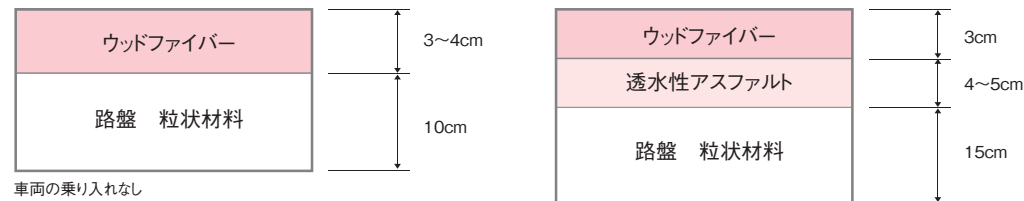
また、木材チップとウレタン樹脂は、バクテリアや紫外線によって分解され、最後には土に戻ることをコンセプトに作られています。したがって、オフィスビルの屋上などでも、植栽や生物との共生空間を創造できます。

子供たちが遊ぶ公園や散策路などによく利用され、人に対する優しさを追求した舗装です。



ウッドファイバー施工例（浜名湖花博会場）

ウッドファイバー舗装断面図例



車両の乗り入れなし

4t管理車両程度の乗り入れを想定

ソイルバーン

天然土系舗装

土の質感を活かした道

全国に広く分布している天然の砂質土「まさ土」と専用固化材を混合し、セメントや樹脂を一切使わず、日本古来のたたきの技術を用いて固めた歩道舗装技術です。土ならではの、柔らかな歩行感があります。

土と同じ保水機能があるため、気化作用によって周囲の温度を下げる効果があり、路面温度がアスファルト舗装に比べて20℃程度抑えられます。

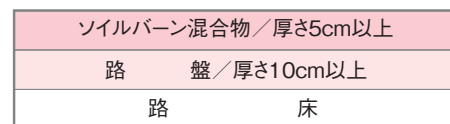
このため、太陽光熱の蓄積などで起きるヒートアイランド現象の抑制にも貢献しています。

落ち着いた自然な土の色調は、自然景観や遺跡・史跡などによく調和します。



ソイルバーン施工例（吉野ヶ里歴史公園）

ソイルバーン舗装断面図例



地域社会や人々との交流・相互理解を大切にしています。

大成ロテックが手掛けている道路舗装工事などは、全国津々浦々に広がっています。私たちが何よりも大切に考えているのは、それぞれの地域の皆様のより安全で便利な暮らしや活力ある社会づくりに少しでも貢献することです。その願いをこめて、地域でのさまざまな行事への参加や交流により、その地域に「良き企業市民」として溶け込み、相互の理解と信頼を深めることに努力しています。

フラワースタンディングバスケットを贈呈

2008年6月、大成ロテック北海道支社（平賀達夫支社長）と安全衛生環境協力会（三浦昌訓会長）は、洞爺湖町にフラワースタンディングバスケット10基を贈呈しました。

同年7月、洞爺湖サミットが開催され、各国首脳を迎えるに



JR洞爺湖駅前に飾られたフラワーバスケット。

先立って、地域社会への貢献の一環として行ったものです。当社が贈ったフラワーバスケットは、JR洞爺湖駅前に設置され、市民の目をなごませていました。



長崎良夫町長から感謝状が贈られた。

沖縄の伝統行事ハーリー(祭)に参加

ハーリーとは、海からの恵みに感謝し、安全と豊漁を願う、沖縄の漁師さんたちの伝統行事。起源は18世紀の始めにまでさかのぼるそうです。

呼び物は、爬龍(はりゅう)船と呼ばれる独特のボートに

よる勇壮な競技。

この伝統の行事に参加し、大いに楽しむとともに、地域の幅広い方たちとの親睦を深めました。



子供たちはスイカ割りに挑戦。楽しい一日を過ごした。



手漕ぎのボートで競い合う勇壮で楽しい行事。沖縄各地で、こうした祭が行われる。

関西草野球界の星？ 地域交流に活躍

関西支社、大阪営業所、神戸営業所、京阪営業所、中央官庁営業所のメンバーで2003年に結成した野球チーム、ロードスターズ。「道路界の星」という意味がこめられています。

2005年から大阪市内の草野球リーグに参戦し、初年度4位から、2006年には初優勝を果たし、翌07年も連続優勝と大活躍。3連覇を狙った08年は、惜しくも準優勝でした。

草野球リーグには、企業・学校・個人など地域の人たちが大勢参加し、野球を通じて幅広い交流と親睦を深めています。

業務だけでなく、スポーツなどさまざまな機会を通じて、地

域に密着し、親しまれる企業文化づくりにも一役買っていると自負しています。



今年も優勝をねらうぞ！ 関西で阪神に並ぶ人気(?)ロードスターズの面々。

技術研究所

環境を中心テーマに、社会と時代の要請に応える開発・研究を推進

大成ロテック技術研究所は、昭和39年の開設以来、道路舗装の基礎技術、応用技術の開発研究を行っています。平成3年に、現在の埼玉県鴻巣市に移転しました。

研究テーマは、つねにその時々々の社会のニーズに目を向けて決められています。

社会や時代が必要としている課題を研究

鈴木秀輔所長代理は、技術研究所についてこう紹介する。「アスファルトやコンクリートなど、舗装に用いる材料や施工方法・施工管理手法に係わる開発研究を始め、自然と生活環境の改善、社会と時代のニーズの変化にも対応した活動を実施しています」

現在、所長以下11名の研究員がここで研究にいそし

んでおり、その時々々の社会の動きや切実なニーズに応えるために、公共機関などとの共同研究を行うこともあります。



鈴木所長代理

環境問題が大きなテーマ

現在進行中のテーマの中でも、環境問題は大きな比重をめています。本CSR報告書でも紹介している中温化アスファルト混合物(ビスコミックス)によるCO₂発生量の削減や保水性舗装、遮熱性舗装などによるヒートアイランド対策も環境対策技術の一部です。また、寒冷地における路面凍結の防止など、安全と

自然に密接にかかわる研究も続けられています。

平成3年に移設された技術研究所。本CSR報告書でご紹介している技術の多くも、ここで生まれたり、改良を加えられたりしたものの。



回転ラベリング試験機(路面の耐久性を評価できる試験機の一部)「道路舗装用材料がタイヤの走行によって受ける影響を評価する」と解説する、青木課長代理。



様々な測定機器がならぶ、実験棟通路



温度や湿度を自由に設定できる環境試験室(室温：-20℃～60℃。湿度：20%～95%)

Column

「雪国出身だから、道路凍結には切実な実感があります」と語る稲本主任



寒冷地における路面凍結を抑制する舗装の研究にたずさわっている稲本主任。

舗装に凍結抑制材を混入させることで、路面の凍結温度を-5℃程度まで下げることができ、路面の凍結を遅延・抑制することができます。実験と分析・レポートを繰り返す日々。思ったとおりの結果が出るとうれしくなるが、予想と異なった実験結果が出ると、四六時中頭を離れないといいます。

より高性能な技術を開発し、その成果を対外的に発表できるようになりたい、と抱負を語っています。

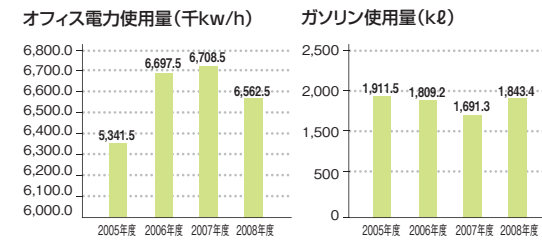
オフィスにおける環境保護活動

オフィスにおいても、省エネルギーやグリーン購入など日常の業務の中で、環境への負荷を低減させ、また環境保護意識を高めていく活動を展開しています。

エネルギー使用量の削減

2005年度を最終年度とする「大成ロテック株式会社環境目的&目標」(以下「目的&目標」)で、オフィスの電力使用量、業務用に使用する乗用車の燃料使用量削減を目標に掲げて活動しています。2008年度は、「夏のクールビズの実施」「昼休みの消灯」「アイドリングストップの実施」「使用乗用車の削減」等に取り組みました。その結果、総量において電力で対前年比146千kw/h減少しましたが、ガソリン使用量においては、対前年比152klの増加となりました。

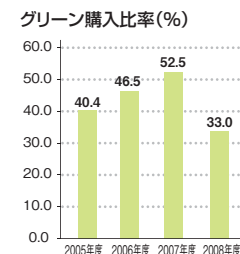
昼休みの消灯を
励行し、電力消費の
削減を図りました。



グリーン購入比率の向上

「目的&目標」で、事務用品のグリーン購入品目を増やすことを目標として活動してきました。その結果、初期の目的である「グリーン購入の意識を植え付ける」という目標は達成できたと考え、現在は日常管理項目として活動しています。

2008年度の購入比率は、前年比12ポイント減の33%に留まりました。これは、製紙業界の偽装により、購入したコピー用紙がグリーン商品から外れたためと考えられます。



コピー用紙の削減

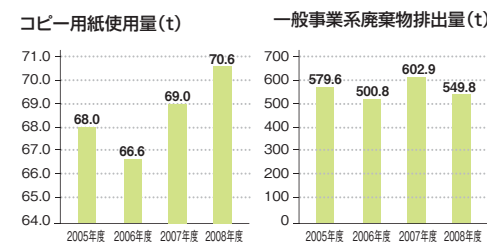
「目的&目標」で、コピー用紙の使用量を削減する目標をたてました。役職員の間で、両面コピーの実施、ミスコピー紙の裏紙の使用などが徹底されましたが、2008年度は総量で対前年比2t増加してしまいました。しかし、一般事業系廃棄物の排出量は、対前年比で53t減少しました。



コピーミスした用紙は破棄せず、必ず裏紙を使用しています。

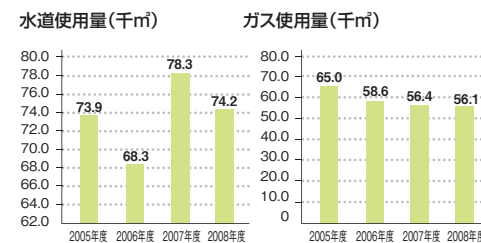


ゴミの排出量を削減すると同時に、分別もより徹底して行いました。



水道、ガス使用量の削減

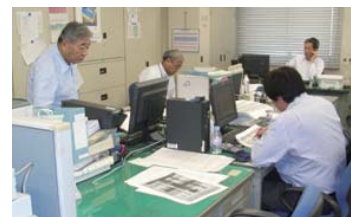
ガス、水道の使用量の削減は、「目的&目標」では項目に上がっていませんが、「貴重な資源を大切に使用するという」基本理念のもと、日常管理項目として活動してまいりました。その結果、水道使用量、ガス使用量とも年々減少傾向にあり、今年度は、対前年度比でガスは、0.3千m³、水道は4.1千m³減少しました。



2004年に統計を取り出して以来、年度毎で多少の変動はありますが、エネルギー、水道使用量、廃棄物の排出量はおおむね減少傾向にあり、環境に対する意識の浸透が伺えます。しかし、コピー紙の使用量削減については、頭打ちの状態、今後の課題と認識しています。

クールビズ運動の実施

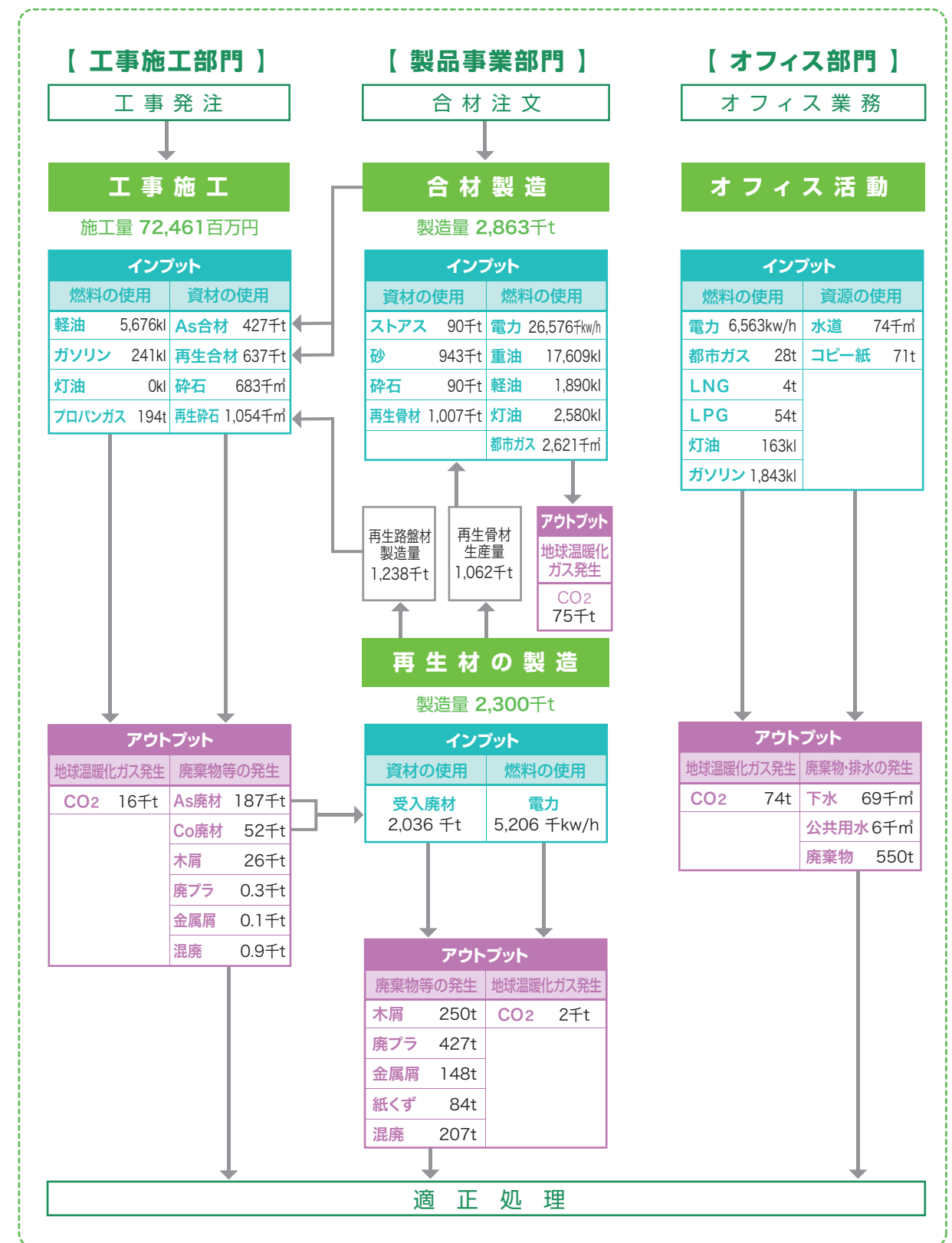
当社は、環境省が提唱しているチームマイナス6%運動に参加しています。その活動の一環として2008年度も6月2日から9月30日まで全社のオフィスでクールビズ(ノーネクタイ運動)を実施いたしました。



お客様にも告知し、ノーネクタイを徹底しました。
また室内温度は28℃に設定しました。

マテリアルフロー

マテリアルフローとは、企業による生産活動によって資源や物資がどのように変化・移動するかを追跡し、適正に処理されているか、できるだけ正確に把握しようとするものです。地球環境保護のための基礎データとして必要なものの一つです。当社は、単純に資源を消費して製品化するにとどまらず、いったん廃棄された資源を再生するなどの有機的なフローを作りだし、資源の再利用と適正処理を心がけています。



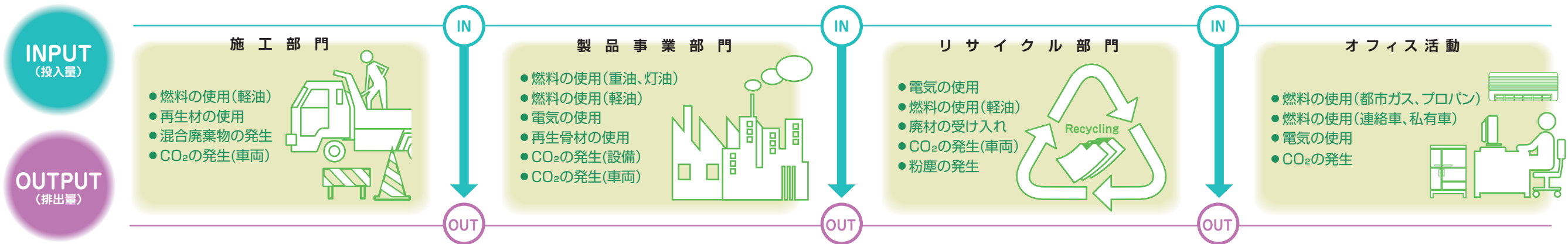
環境負荷物質の排出と削減状況

当社は、道路等の施工や合材製造、営業活動、技術開発・研究活動、オフィス活動その他の日常業務を通じて、以下のような環境負荷物質を排出しています。
と同時に、舗装工事現場から排出されるアスファルト、コンクリートの廃材等を再生する中間処理プラントにより、最終処分量の削減に貢献しています。

施 工 部 門		
項目(単位)	2007年度実績	2008年度実績
AS合材(t)	218,610.8	427,080.5
再生As合材(t)	853,767.2	637,108.3
砕石(m³)	280,170.4	682,674.6
再生砕石(m³)	988,663.5	1,054,004.5
プロパンガス(kg)	233,726.4	194,215.8
軽油(ℓ)	4,461,233.9	5,675,608.4
ガソリン(ℓ)	156,362.4	240,737.9

製 品 事 業 部 門		
項目(単位)	2007年度実績	2008年度実績
購入電力(合材)(kw/h)	27,620,804.6	26,576,435.4
購入電力(リサイクル)(kw/h)	4,787,083.0	5,205,666.8
重油(kℓ)	20,003.3	17,608.9
軽油(kℓ)	1,384.6	1,889.7
灯油(kℓ)	6,188.2	2,579.7
都市ガス(m³)	0.0	2,620,820.0
ストレートアスファルト(t)	61,810.5	90,071.0
砂(t)	462,544.3	942,925.9
再生骨材(t)	904,576.5	1,007,110.6
砕石(t)	953,361.4	90,071.0
廃材受入(Co)(t)	749,998.1	722,311.6
廃材受入(As)(t)	1,346,330.8	1,313,214.8
再生骨材生産量(t)	1,083,447.0	1,062,279.2
再生路盤材生産量(t)	1,284,921.4	1,237,930.5

オ フ ィ ス 活 動		
項目(単位)	2007年度実績	2008年度実績
購入電力(kw/h)	6,708,547.0	6,562,513.4
ガス	都市ガス(m³)	32,610.8
	液化天然ガス(LNG)(m³)	1,454.5
	液化石油ガス(LPG)(m³)	19,251.7
水道(m³)	73,212.1	74,241.7
排水	下水道(m³)	68,109.8
	公共用水(m³)	5,102.3
紙(kg)	68,968.8	70,648.3
灯油(ℓ)	136,291.6	162,912.0
ガソリン(ℓ)	1,470,235.8	1,511,199.7
私有車走行距離	2,210,461.5	3,321,637.3
グリーン購入(%)	52.2	33.0
グリーン購入金額(円)	27,998,236	16,823,151
購入総金額(円)	53,652,769	51,016,230
事業系一般廃棄物(t)	602.9	549.8



※数値は表記以下四捨五入しております。そのため合算の数値が一部合致しない場合がございます。

CO ₂ 排出量											
施 工 部 門			製 品 事 業 部 門			オ フ ィ ス 活 動			合 計		
燃料の種類	2007年度 実績 (単位t)	2008年度 実績 (単位t)	燃料の種類	2007年度 実績 (単位t)	2008年度 実績 (単位t)	燃料の種類	2007年度 実績 (単位t)	2008年度 実績 (単位t)	燃料の種類	2007年度 実績 (単位t)	2008年度 実績 (単位t)
ガソリン	363	559	ガソリン	0	0	ガソリン	3,413	3,508	ガソリン	3,776	4,067
灯油	0	0	灯油	15,421	6,428	灯油	340	406	灯油	15,760	6,834
軽油	11,707	14,895	軽油	3,634	4,959	軽油	0	0	軽油	15,341	19,854
A重油	0	0	A重油	54,202	47,714	A重油	0	0	A重油	54,202	47,714
LPG	702	583	LPG	0	0	LPG	120	162	LPG	821	745
都市ガス	0	0	都市ガス	0	5,526	都市ガス	69	59	都市ガス	68	5,585
LNG	0	0	LNG	0	0	LNG	8	10	LNG	8	10
購入電力	0	0	購入電力	12,250	12,010	購入電力	2,536	2,480	購入電力	14,786	14,491
	0	0	購入電力	12,250	12,010	私有車使用	513	771	私有車使用	513	771
計	12,722	16,037	計	85,506	76,637	計	6,999	7,398	計	105,277	100,072

廃 棄 物						
項目(単位)	2007年度実績			2008年度実績		
	合計	施工	製品事業	合計	施工	製品事業
Asガラ(t)	263,922.4	263,895.0	27.4	188,755.5	187,418.9	1,336.6
Coガラ(t)	36,731.1	36,704.5	26.6	50,376.5	50,257.3	119.2
木くず(t)	3,034.3	2,900.1	134.2	1,098.2	848.5	249.7
伐採木(t)	13.4	13.4	0.0	1,707.4	1,705.7	1.7
汚泥(t)	489.3	436.5	52.8	950.1	880.6	69.5
廃プラスチック(t)	725.7	253.5	472.2	736.3	309.1	427.2
金属屑(t)	625.3	260.7	364.6	237.4	89.0	148.4
紙屑(t)	80.1	33.4	46.7	121.6	38.0	83.6
ゴム屑(t)	53.0	53.0	0.0	0.5	0.0	0.5
繊維屑(t)	0	0	0.0	0.5	0.0	0.5
ガラス(t)	4.7	1.3	3.4	4.2	2.9	1.3
混合廃棄物(t)	933.4	853.4	80.0	1,182.8	975.4	207.4
廃アルカリ(t)	2.8	2.8	0.0	16.8	16.8	0.0
廃油(t)	17.4	2.3	15.1	9.6	5.0	4.6
石膏ボード(m³)	7.7	7.7	0.0	0.3	0.3	0.0
燃え殻(t)	-	-	-	22.6	22.6	0.0
マニフェスト(枚)	4,167.0	4,103.4	636	32,972.0	32,129.0	843.0

実績と目標

大成ロテック株式会社は、2004年6月に全社1組織としてISO14001環境マネジメントシステムの認証を受け、2006年度に第1回更新審査を受審して認証が継続されました。2008年度は、第1回更新審査受審時に作成した長期目標の中間年に当たる年で、この2年間の環境に対する社会の関心の更なる高まり、変化を踏まえ、目的・目標の見直しを迫られた年でした。

実績

2008年度の目的・目標の達成状況です。
○印は達成したもの。△印は未達成ではあるが、達成率が70%を超えているもの。×印は達成率が70%未満のものです。

環境目的		目標値	具体的施策とパフォーマンス (2008年度実績値)		達成度		
環境パフォーマンス項目							
製品事業部門	1. 製品事業部門におけるCO ₂ 排出量の削減						
	1	合材製造における電力量の削減	2005年度比2%削減 生産量 3,187,506t 使用量 33,683,144kw/h 10.56kwh/t 目標 10.35kwh/t	工場主要電動機使用マニュアル教育の実施／コンプレッサー吐出圧力、使用端圧の低減、エア漏れの改善。省エネ機器の導入電気設備の余剰分の撤去	9.2kwh/t	○	
	2	再生材生産における電力量の削減	2006年度比1%削減 生産量 2,468,931t 使用電力5,007,591kw/h 2.03kw/h/t 目標 2.01kw/h/t	主要電動機使用マニュアル教育の実施／省エネ機器の導入電気設備の余剰分の撤去	2.3kwh/t	×	
	3	合材製造時における使用燃料の削減	2005年度比0.4%削減 生産量 3,187,506t 排出量 87,805,134kg 27.6kg-co ₂ /t 目標 27.49kg-co ₂ /t	ストックヤードの管理状況改善 貯蔵材料の管理状況指導 省燃料装置の調査、普及 合材製造温度の適正管理	22.6kg-co/t	○	
	2. 製品事業部門における廃棄物の削減						
	3	廃材の有効活用のための受け入れ	2005年度比9%増産 受入量 1,930千t 目標 2,104千t	地域性を考慮した営業等の指導 廃材受入の適正処理 製造再生材の品質確保 破砕設備の計画的な改善	2300千t	○	
施工部門	3. 施工時におけるCO ₂ の削減						
	1	施工時の機械使用燃料の削減の推進	施工時のco ₂ の1.5%削減 使用量 5,630kℓ 61.4ℓ/百万円 目標 5,546kℓ 60.5ℓ/百万円	工程管理を徹底して工期短縮し、燃料使用量を削減する。 アイドリングストップの徹底	5,676kℓ 78.3ℓ/百万円	×	
	4. 施工時における廃棄物の削減						
	2	産業廃棄物の分別	作業現場における産業廃棄物の分別率の向上 全廃棄物の98%以上	産業廃棄物の分別廃棄の状況 バトロールの実施 産業廃棄物適正処理の実施	99.6% 排出量 244,353t 混合廃棄物 975t	○	
技術開発部門	5.環境配慮設計及び低環境負荷設計提案の推進						
	技術部	1	環境配慮設計・提案の推進	環境負荷設計の実施 全設計件数の45%以上	全ての設計業務に配慮設計の可能性を検討する。雨水に配慮した環境配慮設計を増やす。	全設計物件中、75%の物件で環境配慮設計を実施した。(147/197)	○
	営業部	2	当社環境改善製品の積極的提案	環境改善製品の提案と受注 (受注額226億円)	自治体等への提案 大型物件受注の確保 総合評価制度への対応	受注額294億円	○
	営業部	3	当社環境改善製品の積極的提案	OE式地下貯水工法44件 ウッドチップ工法12件 ウッドファイバー工法16件 受注	ゼネコン、民間、コンサルタント会社への営業、提案を展開	OE式地下貯水工法50件 ウッドチップ工法13件 ウッドファイバー工法17件 受注	○
	6.環境負荷低減機械技術の開発						
	機械部 研究開発所	1	環境負荷低減型機械の改善・開発	環境負荷低減型機械の開発	燃料活性化装置のデータの収集、評価	燃料活性化装置のデータの整理、評価が完了	○
	機械部 研究開発所	2	環境技術の開発	新技術開発、従来技術の改良 起案2件、商品化3／5	給水型保水性舗装等商品化3件 起案3件	起案3件、商品化3件	○
オフィス活動	7. オフィスにおけるCO ₂ 削減の推進						
	1	連絡車の使用燃料の削減	社有車の使用燃料の削減 2005年度比3%減 使用量 1,623,623ℓ 目標 1,575kℓ	公共交通機関の活用。 アイドリングストップの徹底	10.2km/ℓ 使用量 1,511kℓ 走行距離15,411千km	○	
	2	電力使用量の削減	2005年度比3%削減 使用量 6,042kw/h 目標 5,861kw/h 10.8kw/h/m ²	クールビズ・ウォームビズの推進 昼休み消灯。	使用量6,562kw/h 12.1kw/h/m ²	○	
	8.オフィスにおける資源保護の推進						
	3	コピー用紙使用量の削減	2005年度比3%削減 使用量 68t 目標 66t 46kg/人	裏紙の使用・両面コピーの推進	使用量 71t 49kg/人	×	

目標

2009年度以降は、変化している社会の情勢、2008年末に実施されたマネジメントレビューでの指示を踏まえ、2006年度に設定した目的・目標の見直しを実施し、2012年度の京都議定書到達点を見据えたものとしました。また、今まで不明確であった、目的と目標の位置付けの明確化を図りました。

環境目的	環境目標	2009年度 パフォーマンス	2010年度 パフォーマンス	2012年度 パフォーマンス (長期)	実施 部署
製品事業部門	1. 製品事業部門におけるCO ₂ 排出量の削減				製品事業部支社 製品事業部 合材工場
	合材製造における使用エネルギー量の削減(合材製造1t当たりのエネルギー量、CO ₂ 排出量)	合材製造エネルギー使用量 (2008年度実績から2%削減)	合材製造エネルギー使用量 (2008年度実績から3%削減)	合材製造エネルギー使用量 (2008年度実績から5%削減)	
	2. 製品事業部門における廃棄物の削減				
	資源の有効活用への取り組み(廃材の受け入れ量、産業廃棄物のリサイクル率向上)	再生資材生産量 (2008年度実績2%増)	産業廃棄物の再生率の向上 (当社工場排出の産業廃棄物のリサイクル率の調査)	産業廃棄物の再生率の向上 (リサイクル率98%以上)	
施工部門	3. 施工におけるCO ₂ の削減				工事部 支社工事部 営業所
	施工時のエネルギー使用量の削減(請負金当たりのエネルギー使用量、CO ₂ 排出量)	施工時のエネルギー使用量の削減 (2008年度比2%削減)	施工時のエネルギー使用量の削減 (2008年度比3%削減)	施工時のエネルギー使用量の削減 (2008年度比5%削減)	
	4. 施工における廃棄物の削減				
	産業廃棄物の適正処理(産業廃棄物の削減と再生率の向上)	全廃棄物中の分別廃棄率 (99.8%以上)	産業廃棄物の再生率の向上 (当社排出の産業廃棄物のリサイクル率の調査)	産業廃棄物の再生率の向上 (最終処分率10%以下)	
	産業廃棄物の適正処理 (電子 manifests の導入)	5支社で導入(1現場以上)	全支社で導入(1現場以上)	全支社で導入 (全元請現場の50%以上)	
	5. 環境技術の提案の推進				
	環境配慮設計・提案の推進 (環境負荷低減技術の採用)	負荷低減の設計実施 (設計件数の80%)	負荷低減の設計実施 (設計件数の85%)	負荷低減の設計実施 (設計件数の90%)	
	当社環境改善製品の積極的提案と受注	環境改善製品・工法の提案と受注 (2008年度比%5増)	環境改善製品・工法の提案と受注 (2008年度比%10増)	環境改善製品・工法の提案と受注 (2008年度比%15増)	
技術開発部門	当社環境改善製品の積極的提案	OE式地下貯水工法53件 ウッドチップ工法14件 ウッドファイバー工法17件 受注	OE式地下貯水工法55件 ウッドチップ工法15件 ウッドファイバー工法19件 受注	OE式地下貯水工法58件 ウッドチップ工法16件 ウッドファイバー工法20件 受注	営業企画 推進部 営業本部
	6. 環境負荷低減技術の開発				
	環境負荷低減型機械の改善開発 (機械装置の改善開発)	負荷低減型機械装置の改善開発 (改善開発 1件)	負荷低減型機械装置の改善開発 (改善開発 1件)	負荷低減型機械装置の改善開発 (改善開発 1件)	
	環境技術の開発(起案と開発)	新技術、従来技術の改良 (起案5件、商品化3/5件)	新技術、従来技術の改良 (起案5件、商品化3/5件)	新技術、従来技術の改良 (起案5件、商品化3/5件)	
オフィス活動	7. オフィスにおけるCO ₂ 削減の推進				本社総務部 支社管理部 営業所 合材工場 のオフィス部門
	オフィスにおける使用エネルギー量の削減(社員一人当たりのエネルギー使用量、CO ₂ 排出量)	使用燃料の削減 (2008年度比2%削減)	使用燃料の削減 (2008年度比3%削減)	使用燃料の削減 (2008年度比5%削減)	
	8. オフィスにおける資源保護の推進				
	コピー用紙使用量の削減(社員一人当たりのコピー用紙使用量)	コピー用紙使用量減 (2008年度比2%削減)	コピー用紙使用量減 (2008年度比3%削減)	コピー用紙使用量減 (2008年度比5%削減)	
継続的改善 全社EMSの	環境マネジメントシステム(EMS)の継続的改善(環境パフォーマンス管理データの充実・社会環境報告書の充実・環境内部監査員の質の向上と人員の確保)／他のマネジメントシステムとの融合	環境パフォーマンス管理データの信頼性の促進／環境内部監査員の力量と質の向上CSR報告書の発行／他のマネジメントシステムとの複合監査の開始	環境パフォーマンス管理データの信頼性の促進及び公開／環境内部監査員の力量と質の向上／CSR報告書の充実／他のマネジメントシステムとの融合の充実(複合監査実施の定着)	環境パフォーマンス管理データの充実／内部監査の質の向上と充実／CSR報告書の更なる充実／他のマネジメントシステムとの融合の完成	環境 管理責任者

ISO14001、ISO9001による環境・品質の外部審査及び内部監査の実施

当社は、1997年12月に東関東支社房総合材工場にて道路業界で初めてのISO14001を認証取得いたしました。

その後、ISOの考え、その活動を全国に広めるべく環境保全活動の継続的改善に対しての検討を重ね、

2003年6月に全社1組織にてISO14001を認証取得しました。

品質マネジメントシステムであるISO9001については、1997年12月に東京支社(現関東支社)で認証を受け、

その後全国の支社に展開しました。その後、2007年10月に各支社で受けていた認証を全社1組織として認証取得しました。

今日まで環境保全活動の継続的改善及び、工事、合材の品質確保、業務の改善に全社を挙げて取り組んでいます。



環境外部審査の様子

環 境 外 部 審 査

(1)期 間 2008年12月9日～11日(定期審査受審)

(2)定期審査受審組織

①関東支社、中部支社、関西支社の支社本部、営業所、個別工事、合材工場

②本社工事部、製品事業部、総務部、経営企画部、秘書室、監査役業務室、環境管理責任者

(3)審査機関 (株)マネジメントシステム評価センター(MSA)

(4)指摘事項 オフィス部門において法及びその他の要求事項の順守評価の未実施で改善指摘Bの指摘を受け、2008年12月25日までに是正処置、修正処置を完了いたしました。それ以外に推奨事項として、クレーム情報の解決の仕組みと環境パフォーマンス監視測定の手順が評価され、充実点とされました。

品 質 外 部 審 査

(1)期 間 2008年11月12日～14日

(2)定期審査受審組織

①東北支社、東関東支社の支社本部、営業所、個別工事、合材工場

②本社工事部、製品事業部、技術部、業務改善推進部、技術研究所、品質管理責任者

(3)審査機関 (株)マネジメントシステム評価センター(MSA)

(4)指摘事項 指摘事項は、特にありませんでした。



環境内部監査の様子

環 境 内 部 監 査

(1)期 間 2008年6月5日～2009年2月2日

(2)被監査部署

①本社 環境管理責任者、工事部、製品事業部、総務部、技術部、第一営業部、第二営業部、営業企画推進部、技術研究所、機械技術センター

②支社 北海道支社、東北支社、東関東支社、関東支社、北陸支社、中部支社、関西支社、中国支社、九州支社

(3)指摘事項 指摘件数は、全部で77件です。各指摘についての修正処置、是正処置は完了しています。

品 質 内 部 監 査

(1)期 間 2008年10月20日～2009年11月5日

(2)被監査部署

①本社 品質管理責任者、業務改善推進部、技術部、工事部、製品事業部、技術研究所、営業企画推進部

②支社 北海道支社、東北支社、東関東支社、関東支社、北陸支社、中部支社、関西支社、中国支社、九州支社

(3)指摘事項 指摘件数は、全部で14件です。各指摘についての修正処置、是正処置は完了しています。

環境経営度ランキング

企業経営における環境への配慮を日経産業新聞社がランクづけしている「環境経営度ランキング」の2008年度分が2008年12月3日付けで発表されました。当社は2004年度から参加しており、2005年度・2006年度は、道路会社ではトップの成績でした。残念ながら2008年度は2007年度に続き、1位の座を他社に明け渡しましたが、総合では25位から20位へと前進しました。今後さらに環境に配慮した経営に努力してまいります。

編 集 後 記

大成ロテック株式会社のCSR報告書をお読み頂きありがとうございます。

当社は、企業理念に則った環境活動の内容を広くステークホルダーの皆様
に知って頂くことを目的に、2006年に社会環境報告書を初めて発行いたしました。しかしこの1～2年、社会環境報告書に、財務報告を除く企業活動の報告をより広く求めることが本流になってきました。その要望に応えるべく、本年度より「社会環境報告書」から「CSR報告書」へとリニューアルしました。

さらに、CSR報告書を発行するにあたり、今までの編集活動を見直し、各部門の若い社員を中心としたプロジェクトチームを結成しました。

そのため、今までの報告書以上に、ステークホルダーの皆様に近い目線での誌面作りが出来たのではないかと自負しております。

特に今回は、よく目に触れてはいるものの十分に理解されていなかった現場の活動を取り上げ、工事の中で社会・環境活動にどのように貢献しているかを紹介することが出来ました。また、当社の各技術を、「自然・社会・人」に貢献するという企業理念に即して分類し、紹介させて頂きました。これらは、女性の事務系社員の意見を取り入れたことによるものです。また、とかく分かりにくかった、現場の活動、技術、用語等をステークホルダーの目線で分かりやすく解説してくれたのは、当社の若手技術社員の面々です。

いささか旧聞に属しますが、3月のWBCにおける日本チームの優勝は、お互いの個性を尊重した上でのチームワークの上にありました。この報告書も当社の女性社員、若手技術社員が、お互いの個性の引き出しを尊重した上でのチームワークの賜物であると確信しております。

しかし、まだ至らぬ点、ご指摘等が多々あると思います。それらを真摯に受け止め、当社の事業活動、来年度以降の誌面の充実に反映させる所存です。で、事務局宛に、どしどしご意見をお寄せ頂きたく、お願いいたします。

対象期間: 2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)

対象範囲: 大成ロテック及び関連会社の活動紹介の一部も含まれています。

お問い合わせ: CSR報告書に関するお問い合わせ窓口は、以下となります。

住 所 東京都中央区京橋3-13-1
電 話 03-3567-9431
ファックス 03-3567-8521
電子メール teruo_shiotani@taiseirotec.co.jp
takashi_koike@taiseirotec.co.jp
担当部署 経営企画部 総務部
担 当 者 塩谷 照夫
小池 隆

当社の活動は、インターネットのホームページでも公開しています。

<http://www.taiseirotec.co.jp/>

会社概要

名 称	大成ロテック株式会社
所 在 地	東京都中央区京橋三丁目13番1号
設 立	昭和36年6月15日
資 本 金	113億5百万円(平成21年3月31日現在)
建 設 業 許 可	国土交通大臣許可(特・般-19)第1964号
建 築 士 事 務 所 登 録	1級建築士事務所(東京都知事登録第21111号)
建設コンサルタント登録	国土交通大臣登録 建21第130号
宅 地 建 物 取 引 業 者	東京都知事(10)第33255号
I S O の 認 証	ISO9001全支社 ISO14001全社一括
従 業 員 数	1,213名(平成21年3月31日現在)
営 業 種 目	1.次に掲げる工事の設計、施工、監理およびコンサルティング (1)道路工事 (2)舗装工事 (3)防水工事 (4)管工事 (5)造園工事 (6)その他の土木工事 (7)その他道路に関する工事 (8)建築工事 2.前号の工事に使用する諸材料の製造および販売 3.建設機械器具の設計、製作、販売、修理および賃貸 4.スポーツ施設、飲食店等の商業施設、医療介護施設等の経営および賃貸 5.産業廃棄物処理に関する事業 6.不動産取引および不動産管理に関する事業 7.労働者派遣事業 8.前各号に付帯関連する一切の事業

年度別売上・利益・従業員数一覧

(単位 百万円) (人)

		完成工事高	合材売上高	計	経常利益	総資産額	従業員
2004(平成16)年度	第48期	88,290	20,722	109,012	1,384	99,467	1,169
2005(平成17)年度	第49期	92,103	21,661	113,764	1,029	104,222	1,188
2006(平成18)年度	第50期	93,103	23,330	116,433	1,155	102,360	1,183
2007(平成19)年度	第51期	89,894	22,757	112,651	1,250	104,795	1,176
2008(平成20)年度	第52期	79,210	25,235	104,445	1,005	97,211	1,170

事業ネットワーク

本社を中心に支社、営業所、合材工場など、日本全国約200ヵ所の拠点を設置。
各種工事の施工、合材製品の製造・販売など、万全の事業ネットワークで豊かな社会づくりに貢献します。

北海道支社	道南営業所／函館営業所／八雲営業所／室蘭営業所 虻田営業所／日吉営業所／日胆営業所／道東営業所 弟子屈営業所／十勝営業所／道央営業所／道北営業所 留萌宗谷営業所
合材工場	函館アスコン／イブリアスコン／洞爺アスコン／苫東アスコン 門別合材工場／丹頂アスコン／弟子屈合材工場 札幌中央アスコン／大雪アスコン／遠別合材工場
東北支社	岩手営業所／青森営業所／水沢営業所／秋田営業所 宮城営業所／山形営業所／福島営業所／福島北営業所 いわき営業所
合材工場	盛岡合材工場／久慈中央アスコン／秋田合材工場 仙台東アスコン／山形合材工場／福島県中央アスコン 相馬アスコン／若松アスコン／いわきアスコン
関東東支社	千葉営業所／長柄営業所／船橋営業所／柏営業所 茨城営業所／茨城北営業所／つくば営業所／石岡営業所 成田営業所
合材工場	成田アスコン／房総合材工場／トーセキアスコン 石岡合材工場
関東支社	東京営業所／多摩営業所／横浜営業所／厚木営業所 沼津営業所／京浜営業所／東埼玉営業所／鴻巣営業所 西埼玉営業所／花園営業所／群馬営業所／栃木営業所
合材工場	東京青海合材工場／相模アスコン／浦和アスコン 花園合材工場／鴻巣上谷環境センター
北陸支社	新潟営業所／中越営業所／信越営業所／石川営業所 富山営業所／岐阜営業所
合材工場	新潟アスコン／加賀アスコン
中部支社	名古屋営業所／知多営業所／尾張営業所／長野営業所 三重営業所／北勢営業所／浜松営業所／静岡営業所 湖西営業所
合材工場	小牧合材工場／名四アスコン／豊明アスコン／湖西アスコン
関西支社	大阪営業所／堺営業所／奈良営業所／神戸営業所 福知山営業所／京阪営業所／京都営業所／滋賀営業所
合材工場	大阪アスコン／岸和田アスコン／せいしんアスコン 福知山合材工場
中国支社	岡山営業所／津山営業所／鳥取営業所／島根営業所 広島営業所／呉営業所／備後営業所／山口営業所
合材工場	津山合材工場／鳥取合材工場／島根アスコン 広島合材工場／さくらアスコン／防府アスコン
四国支社	香川営業所／愛媛営業所／徳島営業所／高知営業所
合材工場	池田アスコン／脇町アスコン
九州支社	福岡営業所／佐賀営業所／大分営業所／熊本営業所 阿蘇営業所／鹿児島営業所／沖縄営業所／久米島営業所
合材工場	玄海アスコン／佐賀合材工場／豊海アスコン／熊本合材工場 阿蘇合材工場／南九州アスコン／アドバンテック南薩アスコン ひむか合材センター／海邦アスコン